

旭川企業のベトナム進出がよいよ本格化

エフ・イーがサツマイモ洗浄機を納品

旭川企業のベトナム進出が本格化してきた。先陣を切る形になったのが農業機械メーカーの(株)エフ・イー(佐々木通彦社長)で、7月10日に佐々木社長自ら現地入りしてサツマイモ洗浄機を納品。

このあと12月にも佐々木社長が会長を務める旭川機械金属工業振興会の7社が現地視察に入る予定で、ベトナムにおける農業関連機械等の事業はいよいよ具体化の段階に踏み出すことになる。

エフ・イー製「サツマイモ洗浄機」の“すごさ”に興味津々のダラット社の従業員



エフ・イーの今回の納品先は、ダラット・ジャパン・フーズ(株)(1999年設立)。中国を中心に海外に合弁会社を持つ(株)京果食品(京都府)の子会社で、最近、近大マダロを取り扱う会社として注目された豊田通商(株)(本店・名古屋市)

のグループで同社の資本金の30%を取得している。「ダラット社の邦人社長がわざわざ弊社まで訪ねて来て、ぜひ、うちのサツマイモ洗浄機がほしいといってきた。今年はじめのことだった。ベトナムの電源仕様に合わせて400V対応に変更したり、注意喚起のステッカー等を現地語にしたり、各種の手直しを経た上で、6月に苫小牧港から送り出すことができた」(佐々木社長)。

現地での納品は、佐々木社長の指示で梱包を解くところから始まり、無事に設置を完了、早速、試運転が行われたが、手作業ではなかなか取れなかった泥などの汚れを見事に洗ってしまおう。すごさに驚きの声が上がったという。日本企業が海外に進出する場合、第一に心配となるのが、カウンターパー트가果たして信用している相手かどうかだが、今回のエフ・イーのケースはそうした心配を取り除く一手法で、あとに続く企業にとつて、いい見本を示してくれていると、もいえそうだ。

旭川の中小企業7社のベトナム入りは、この共同グループが申請していた「東西経済回廊周辺諸国ベトナム・ラオス農業機械等プロモーション事業」が国の地域力活用市場獲得等支援事業に採択されたことで行われるもので、現段階ではあくまでも現地の農業事情などを探るのが目的。ただ、現地の農業に関しては「道路の側溝をいぢいち型枠を入れて作っている」「低湿地帯の水はけ工事がなかなか進まない」などの多くの課題があり、7社が持つU字溝や水門樋門の施工技術などを生かせる分野は大きいという。

ぜひともエフ・イーのように外貨を稼ぐ企業が続き、旭川の経済をゲンキにしてももらいたいものだ。